



原爆による破壊から立ち上がった
広島と長崎。



HIROSHIMA
NAGASAKI

2つの都市が復興した姿を
感じに行こう。



HIROSHIMA

1945年8月6日、午前8時15分

月曜日の朝、広島は晴天であった。
人々がそれぞれの1日を始めようとしていた広島。
午前8時15分、世界で初めて広島に原子爆弾が投下された。
広島は壊滅され、多くの尊い命が失われた。
【死者：(1945年12月末)推計で約14万人】

立ち上がる広島

原爆で破壊された広島。
市民は自らの生活を再建させつつ街の復興に立ち上がった。
国内外の人々も支援の手を差し伸べた。
広島市の復興の道は困難だったが、1949年(昭和24年)
制定の広島平和記念都市建設法に後押しされて都市基盤は
徐々に整備され、現在は人口100万人を超える都市にまで
発展した。

©米軍撮影 広島平和記念資料館提供 ©川本 俊雄氏撮影 川本 祥雄氏提供 ©林 重男氏撮影 広島平和記念資料館提供 ©広島市提供

NAGASAKI

1945年8月9日、午前11時2分

その日、朝から発せられた警報に、人々の緊迫感が高まっていた。
警報が解除され、長崎の人々が日常生活に戻り始めたその時。
午前11時2分、広島に続く2発目の原子爆弾が、
長崎の上空で炸裂した。
まちは一瞬にしてがれきと化し、多くの尊い命が失われた。
【死者：(1950年7月発表) 73,884人】

立ち上がる長崎

原爆で焼き尽くされた長崎。
それでも市民は、祈りと復興への希望を忘れなかった。
爆風で浦上天主堂から吹き飛ばされた
「アンジェラスの鐘」が地中から発見された1945年のクリスマス。
まちに再び響き渡った奇跡の鐘の音は、人々に勇気と希望を与えたのだ。
1949(昭和24)年に公布された「長崎国際文化都市建設法」を契機に、
爆心地を中心に平和を発信する都市として整備されていった。
現在、長崎市は約39万人を擁する都市へと成長した。

©長崎原爆資料館所蔵 ©長崎原爆資料館所蔵 ©(一社)長崎県観光連盟



原爆投下3日後には走り出したという路面電車。
 先人たちのたゆまぬ努力と国内外からの温かい支援により
 復興を遂げた今の姿は人々の心をとぎめかせている。
 市内を流れる美しい川や瀬戸内の多島美。
 市民が熱狂する野球やサッカーなどのプロスポーツ。
 地元でも愛されるご当地グルメ。
 広島だからこそできる体験を求めて、多くの観光客が
 訪れている。

復興を遂げた今。



被爆後、2か月も経たずに行われた“長崎くんち”
 倒壊前の姿を模して復元された“浦上天主堂”
 戦後のエネルギー不足の中、日本の復興を後押しした
 端島(通称「軍艦島」)の石炭。
 長崎の人々が築いてきたまちは今、観光客の心をとらえて離さない。
 「世界新三大夜景」に数えられる美しい夜景や、
 海外との交易で生まれた個性的な文化。
 長崎でしか得られない体験を求めて、多くの観光客が訪れている。

©長崎市



平和な未来へ 向かって

©広島市提供

あの日の悲劇から80年。
 そして、姉妹友好都市提携から50年。
 廃墟から復興した二つの都市を訪れると、
 平和の尊さや、人々の力強さを感じる。
 世界恒久平和を願い、発展し続ける広島・長崎を訪れ、
 改めて平和の尊さを感じてほしい。

©(一社)長崎県観光連盟

アクセス

主要都市の大阪から、広島へは新幹線、長崎へは
 新幹線または飛行機でお越しいただけます。

